

2026年 5月 14日

《 2026年度07クラス4回生卒業制作企画書

【学籍番号】：1911210148-1

【氏 名】：CHOI SEUNGSOO

【タイトル】：未定

【時 間】：約 12分、未定

【作品テーマ】 「車内でしか言えないこと」、「空間が生み出す感情」、「終わらせることができたのに、終わらせなかった夜」

【作品モチーフ】 「正面から向き合って話すよりも、車内で同じ方向を見ながら話す時の方が、普段は言えないことを少し正直に話してしまう感覚」

【企画意図】

車内という密閉された移動空間が、人の感情や関係性にどのような変化を生むのかを描く短編映画である。

私たちは、どのような空間にいるかによって、普段とは違う言葉を選び、普段とは違う感情を抱くことがある。車内は、狭く、密閉され、互いに正面から向き合わず、同じ方向を見ながら移動し続ける空間である。そのため、普段なら終わらせることのできた会話や感情が、車が走り続けることで曖昧に延長されていく。

この作品では、恋人が先に降りたあと、男がその恋人の友人を駅まで送るだけの夜を描く。二人の間に明確な告白や接触は起こらない。しかし、終わらせなかった小さな選択が積み重なることで、二人は「何もしていない」とは言い切れない関係へと近づいていく。

本作が描きたいのは、不倫や裏切りそのものではなく、「終わらせることができたのに、終わらせなかった」という曖昧な選択である。何かが起きたわけではない。しかし、終わらせなかったことによって、すでに何かが起きてしまった夜を描く。

【プロット】

ロケハンを終えた夜、Aは恋人のBと、その友人であるCを車に乗せて帰っている。Bは途中で先に降り、AはCを駅まで送ることになる。

Bが降りたあとも、車内にはBが選んだ音楽と、Bが置いていったカーディガンが残っている。Aはその音楽を別の曲に変え、Cはそれに気づく。二人は駅へ向かう途中で二度コンビニに寄り、Cは少しずつ後部座席から前の方へ、そして助手席へと移動していく。

駅が近づく頃、Bからメッセージが届くが、Aは返信しない。やがて車はCが降りるはずの駅の近くに着く。しかし、Aは止まらずにそのまま通り過ぎる。ナビゲーションは「経路を再探索します」と告げる。

車は目的地から離れ、街の明かりや信号も少しずつ減っていく。Aは眠気の中で、覆面をしたCが「私たち、共犯だよ」と言う幻を見る。二人の間に明確な出来事は起こらない

が、終わらせることのできた瞬間を通り過ぎたことで、車内には「何もしていない」とは言い切れない空気が残っていく。

【登場人物】

A

男性。Bの恋人。車を運転しており、Bが降りたあと、Cを駅まで送ることになる。

B

女性。Aの恋人。古い音楽を好み、車内にカーディガンを忘れていく。

C

女性。AとBの友人。Bが降りたあと、Aに駅まで送ってもらう。後部座席から前へ、そして助手席へと移動していく。

【制作スケジュール】

- ・5月～6月 シナリオ作成
- ・6月～8月 プリプロダクション
- ・8月中旬～9月上旬 撮 影
- ・9月 ポストプロダクション

以上